

愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査（EDOR）報告

第 51 回（2015 年 10-12 月期）

2016 年 1 月 14 日

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

問合先：曾我亘由（愛媛大学総合地域政策研究会）tel. 089-927-9238

愛媛県中小企業家同友会 tel. 089-968-3112

集計：植木翔子（愛媛大学法文学部総合政策学科 3 回生）

文章：曾我亘由（愛媛大学法文学部総合政策学科教授）

県内中小企業、堅調に推移するもますます従業員不足が深刻

【調査要領】

- (1) 調査期間 2015 年 12 月 1 日 ～ 2015 年 12 月 31 日
- (2) 対象企業 愛媛県中小企業家同友会会員企業
- (3) 調査方法 郵送による自計記入
- (4) 回答企業数 調査対象企業数 420 社、回答企業 134 社（回答率 31.9%）

【EDOR 調査結果概要】

（売上高、採算、採算水準、業況）

前回調査（2015 年 7-9 月期）は、各調査項目について好転と悪化が交じる結果となった。売上高 DI、自社業況判断 DI、業界業況判断 DI については、前期比で好転、前年同期比で悪化、採算（経常利益）DI については、前期比、前年同期比で好転する結果となった。

今回の調査では、業界業況判断を除くすべての項目で前回調査から DI 値が好転した。売上高 DI については、前期比で 10.8 から 23.9 へ 13.1 ポイント、前年同期比で 14.4 から 20.1 へ 5.7 ポイント好転した。採算（経常利益）DI についても、前期比で 7.2 から 17.9 へ 10.7 ポイント、前年同期比で 7.2 から 16.4 へ 9.2 ポイント好転した。採算水準 DI については 49.3 ポイントと、調査開始以来、2 番目の高水準となった。自社業況判断 DI については、前期比で 5.8 から 14.2 へ 8.4 ポイント、前年同期比で 4 ポイント好転した。業界業況判断 DI については、前期比で -10.9 から -10.4 とほぼ横ばいであったが、前年同期比で -7.2 から -13.4 へと 6.2 ポイントの悪化となった。各項目について、前期比で DI 値の好転が見られたのは、季節的な要因が主な理由と考えられる。前年同期比については、業界業況判断 DI で悪化したが、その他の項目ではすべて好転し、採算水準 DI についても、高い水準となったことから、前

回調査では県内景気は踊り場の状況としたが、今回の調査結果をうけ、県内景気は底堅く推移していると判断できる。

採算が好転した企業にその理由をたずねたところ、売上数量・客数の増加を挙げる企業が最も多く、次いで売上単価・客単価の上昇を挙げる企業が多く、その割合も前回調査から増加する結果となった。採算が悪化した企業にその理由をたずねたところ、売上数・客数の減少を挙げる企業が最も多い結果となった。原材料費・商品仕入額の低下を挙げる企業の割合は2期連続で下落し、売上単価・客単価の下落、人件費の増加を挙げる企業の割合も減少した。

(経営上の問題点)

前回調査では「従業員の不足」を経営上の問題点に挙げる企業が最も多く、その割合は42.2%であったが、今回の調査ではその割合はさらに2.5ポイント増加し44.7%という結果となった。前回、従業員の不足を経営上の問題点として挙げる企業の割合は、調査開始以来もっとも高い水準となったが、今回の調査でもその傾向は依然として高く、県内中小企業の人手不足が深刻となっていることがうかがえる。後述する特別調査では雇用に関する調査を実施しており、県内中小企業の厳しい雇用環境を反映する結果となった。「仕入単価の上昇」を経営上の問題点として挙げる企業の割合は、原油価格が安定的に下げ止まっていることを背景に、前回の29.6%から12.9%と16.7ポイント下落した。「民間需要の停滞」を経営上の問題点として挙げる企業の割合は前回調査から増加しており(27.3%)、比較的低い水準にとどまっていながらも2番目に高く、注視が必要である。

経営上の力点については、「新規受注の確保」、を挙げる企業の割合が最も高く(50.4%)、次いで「人材確保」を挙げる企業の割合が多い結果となった(44.3%)。特に「人材確保」については4期連続で増加しており、この項目だけでみると、調査開始以来もっとも高い水準となった。この「人材確保」については経営上の問題点として挙げられていた「従業員の不足」と整合的な結果となった。

以上の結果から、今回の調査では、業界業況判断DIを除くすべての項目で、前期比、前年同期比ともDI値は好転した。さらに、雇用に関する項目が経営上の問題点や力点の上位となっていることから、県内中小企業の景況感は底堅いといえるが、従業員の不足をはじめとして、県内中小企業の雇用環境は厳しく、人材確保にむけて、更なる積極的な取り組みが必要とされる。

【特別調査】

今回は特別調査として雇用・採用に関する調査を実施した。雇用に関する調査は2014年10-12月調査以来の調査である。まず、従業員数、労働時間、労働の過不足感について聞いたところ、2014年10-12月期と比較して正規従業員を増加させた企業が27.4%、減少させ

た企業は 12.1%、横ばいと回答した企業は 60.5%となった。前回調査では正規従業員を増加させた企業の割合は 25.4%、減少させた企業の割合は 8.2%、横ばいと回答した企業の割合は 66.4%であり、1年前の調査と比較して、正規従業員数を増やした企業の割合はほぼ変わらなかったが、正規従業員数を減らした企業の割合は増加した。パート・アルバイト数については（カッコ内は前回調査の割合）、増加させた企業の割合が 23.2%（19.5%）、減少させた企業の割合が 12.5%（13.3%）、横ばいと回答した企業の割合が 64.3%（67.3%）という結果となっており、パート・アルバイトの割合を増加させる結果となった。所定外労働時間については 20.7%の企業が増加したと回答しており、前回調査の 21.2%からほぼ横ばいという結果となった。

労働の過不足感 DI については、労働力が過剰、やや過剰と回答した企業の割合は 8.8%（11社）、これに対し、不足、やや不足と回答した企業の割合は 66.4%（83社）となり、DI 値は -57.6 と前回調査の -51.6 からさらに悪化した結果となった。しかしながら、今後の採用予定について聞いたところ、64.5%（80社）の企業は採用の予定はないと回答しており、そのうち 28.8%（23社）は採用したいという希望はあるが採用予定はないと回答しており、45.0%（36社）は採用したい希望はないという結果となった（採用しない理由が無回答は 26.3%、21社）。また、労働力が不足、やや不足と回答した企業 83社についても、今後の採用を予定している企業は 42.1%（35社）にとどまり、採用を予定していない企業の割合 55.4%（46社）を下回る結果となった。

以上の結果から、県内中小企業の雇用環境は依然として厳しい状況にあり、慢性的な人手不足感が存在している。しかしながら、人手が不足していてもすぐには採用行動に出ることはできず、現状の人材で何とか経営を乗り切っていると考えられる。県内中小企業の雇用環境はますます厳しくなると予想され、中小企業の合同説明会をはじめとして、戦略的に人材を確保する必要がある。

第51回(2015年10-12月期) EDOR 調査結果

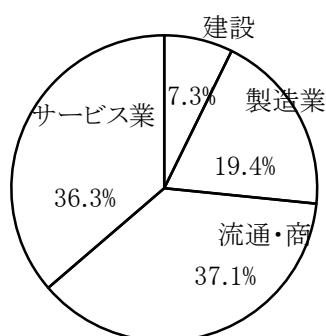
回答企業の基本情報

業種(4業種分類)

	社	%
建設業	9	7.3
製造業	24	19.4
流通・商業	46	37.1
サービス業	45	36.3
合計	124	100.0

※1社…農業

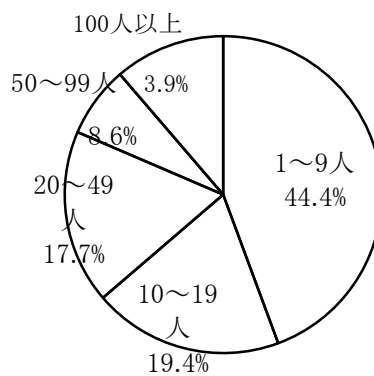
業種



常勤役員を含む正規従業員数

	社	%
1～9人	55	44.4
10～19人	24	19.4
20～49人	22	17.7
50～99人	9	7.3
100人以上	14	11.3
合計	124	100.0

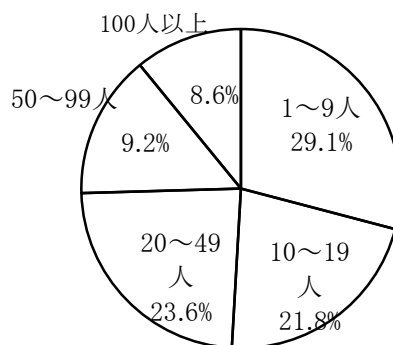
正規従業員数



臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数

	社	%
1～9人	32	29.1
10～19人	24	21.8
20～49人	26	23.6
50～99人	16	14.5
100人以上	12	10.9
合計	110	100.0

総従業員数

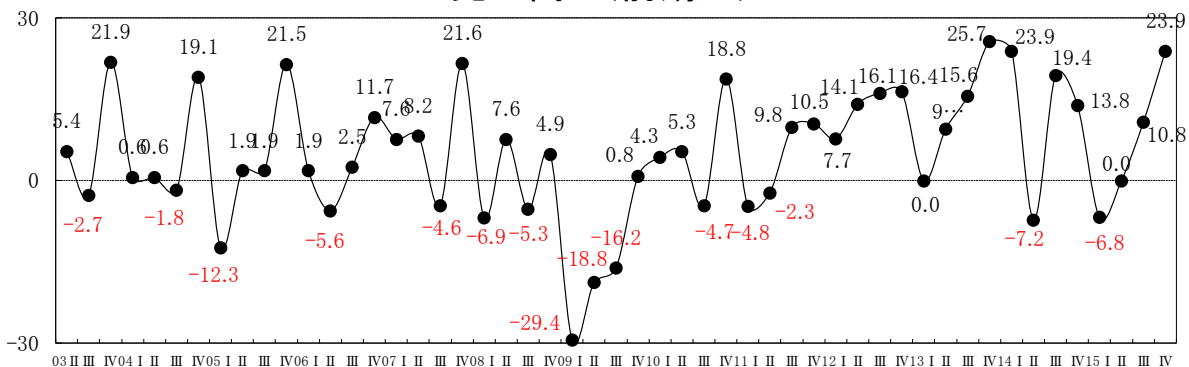


従業員数の平均と中央値

	人
常勤役員を含む正規従業員数	
平均	31.3
中央値	12
臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数	
平均	52.5
中央値	17

ポイント

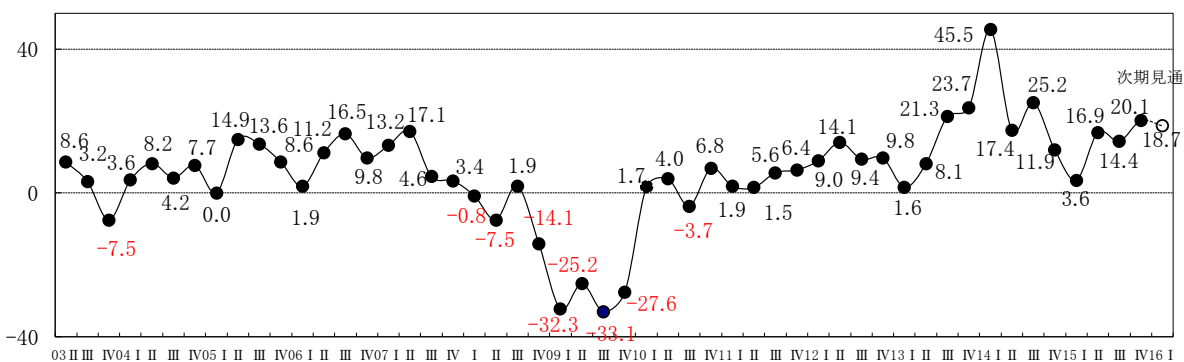
売上高DI(前期比)



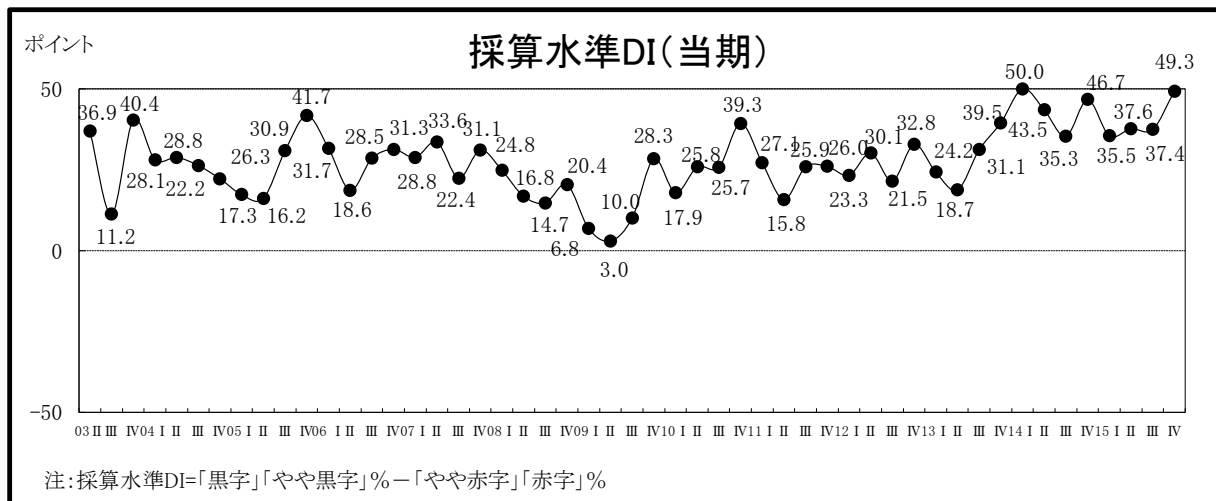
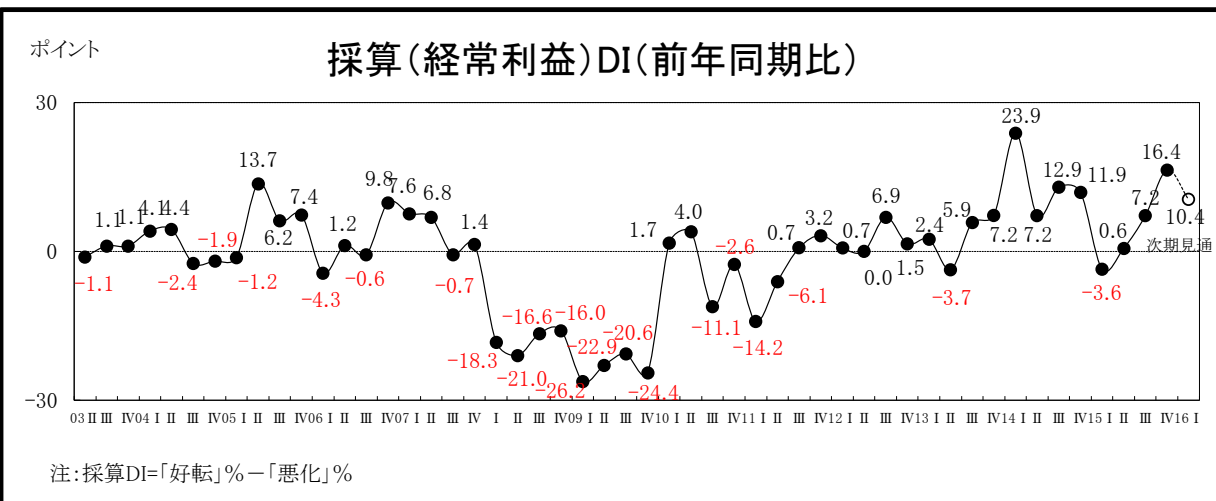
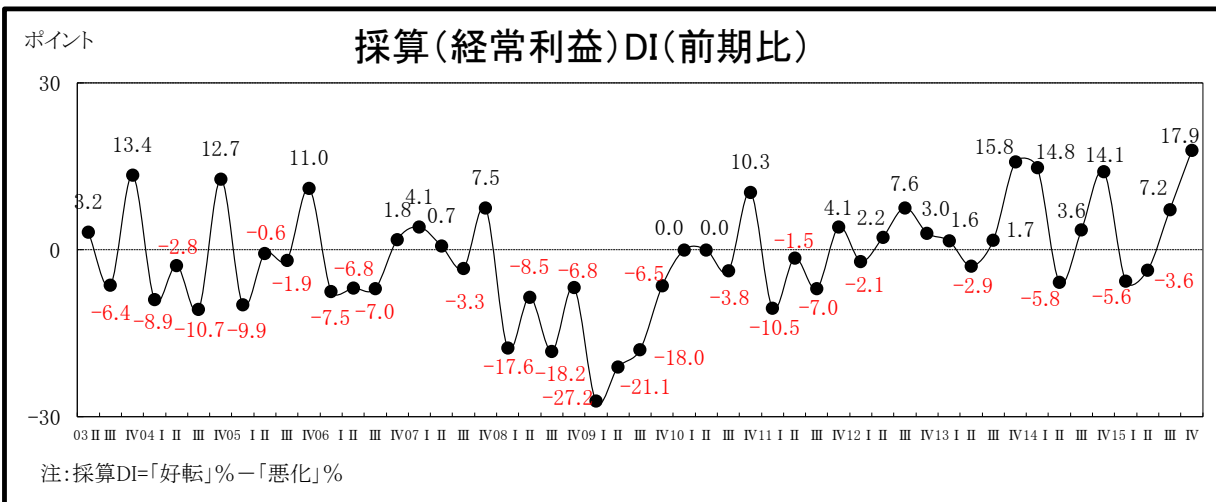
注:売上高DI=「増加」%-「減少」%

ポイント

売上高DI(前年同期比)

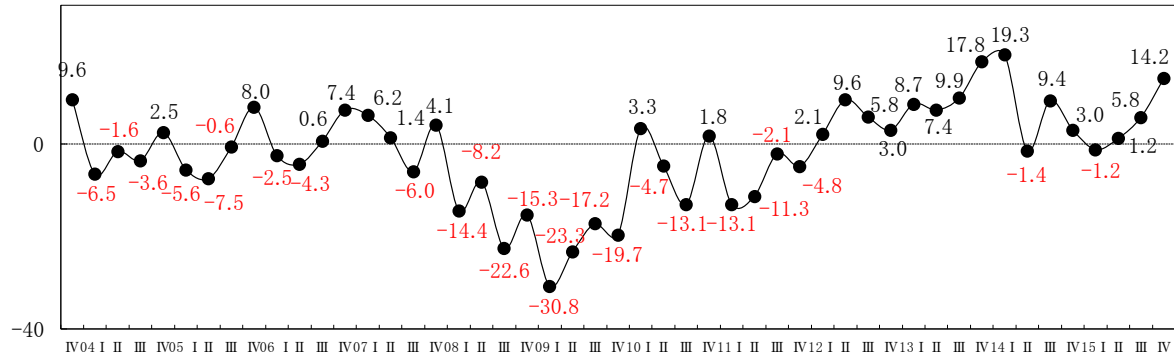


注:売上高DI=「増加」%-「減少」%



ポイント

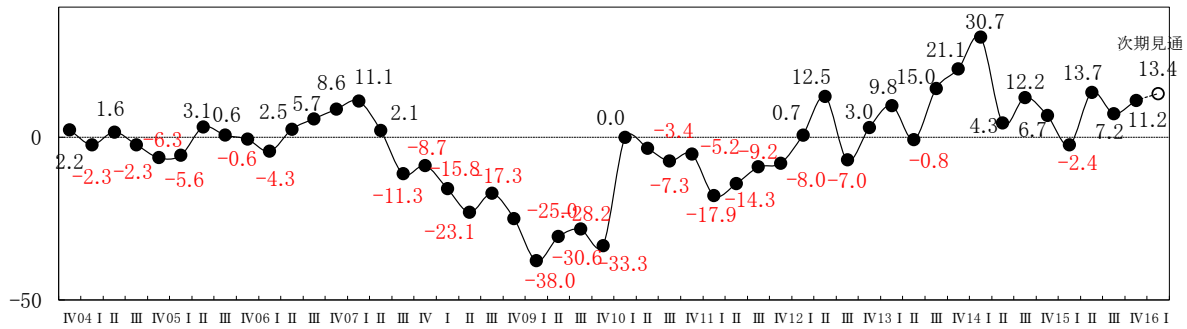
自社業況判断DI(前期比)



注:設問:各企業の経営状況全般について、業況判断DI=「好転」%-「悪化」%

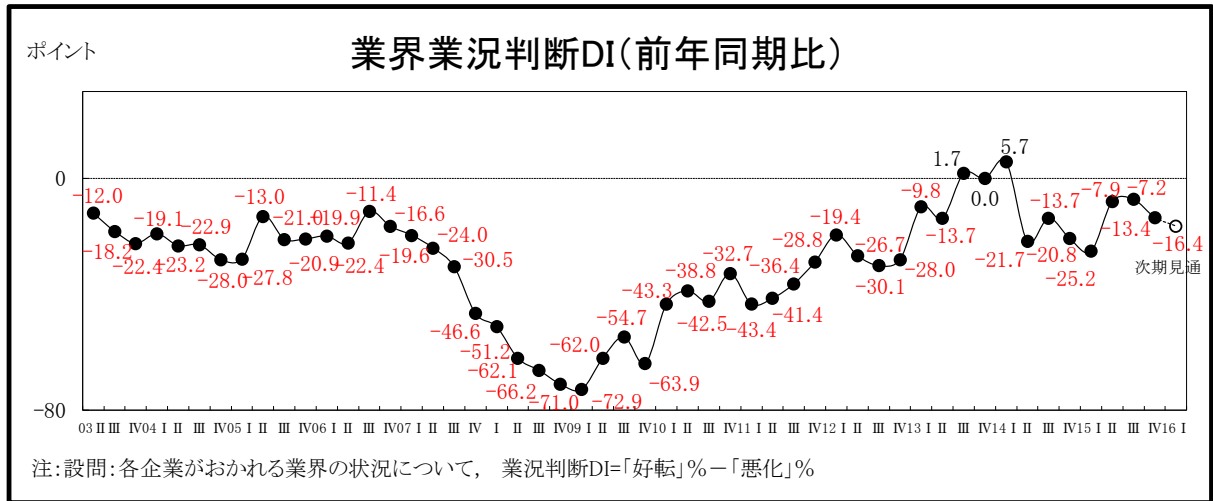
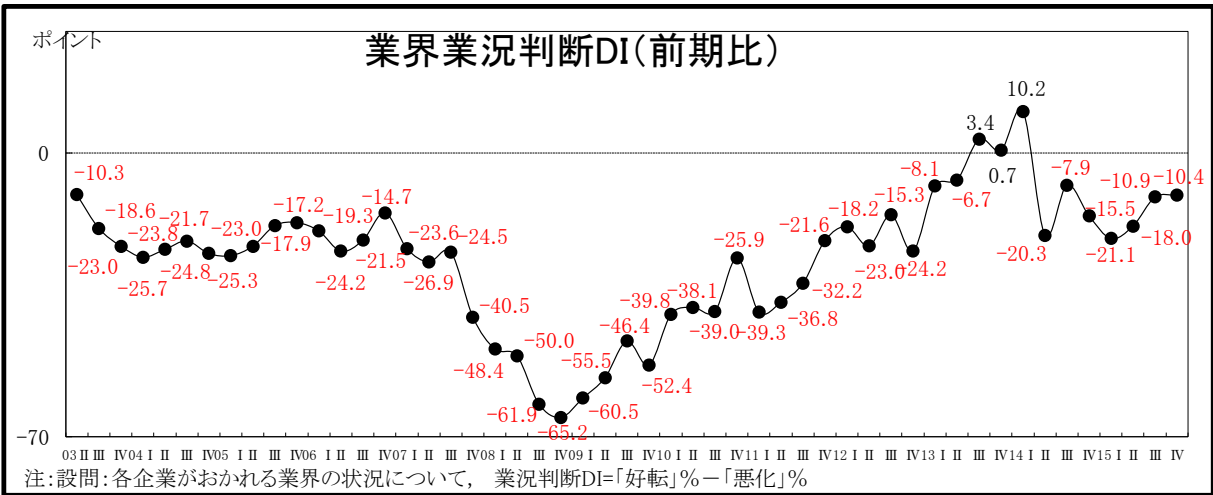
ポイント

自社業況判断DI(前年同期比)



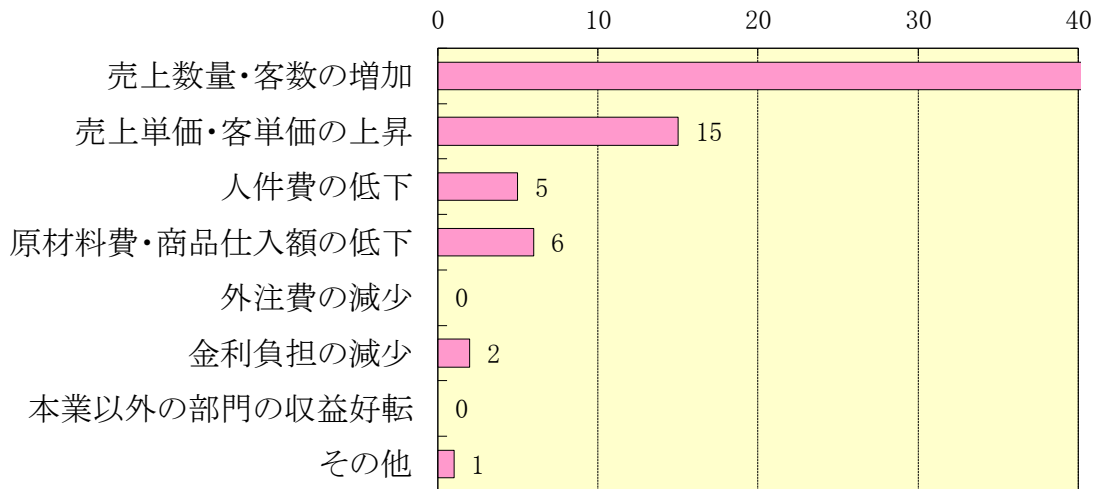
注:設問:各企業の経営状況全般について、業況判断DI=「好転」%-「悪化」%

次期見通



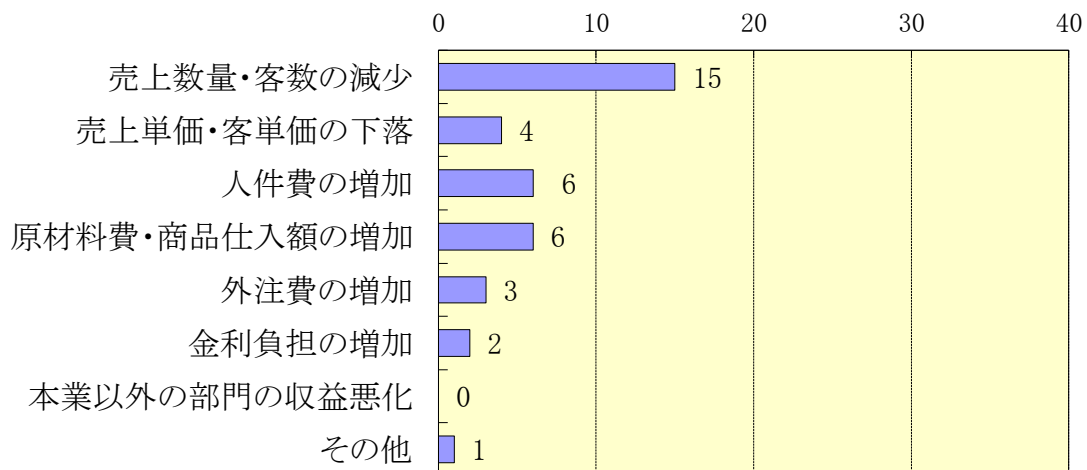
採算好転の理由

回答数

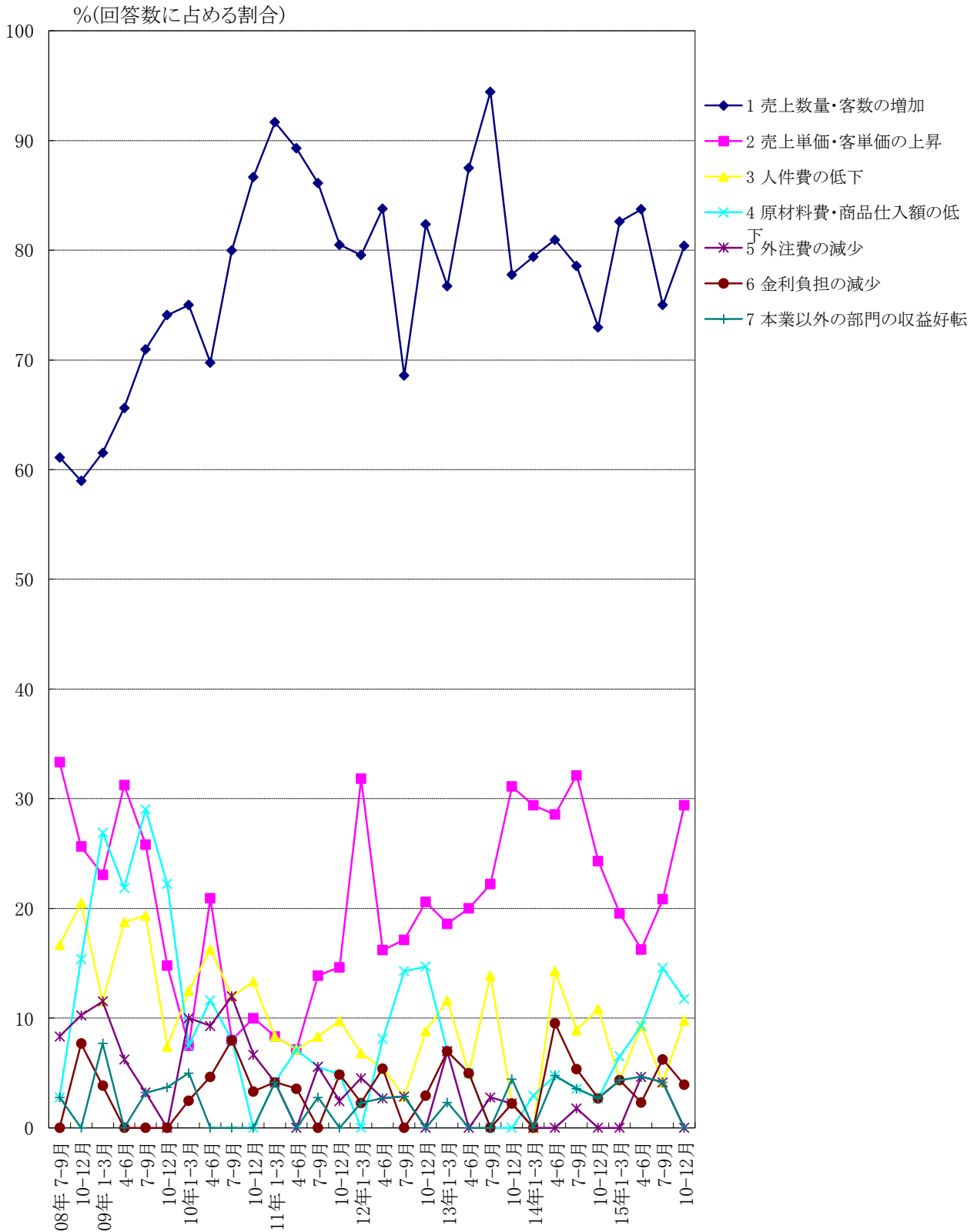


採算悪化の理由

回答数

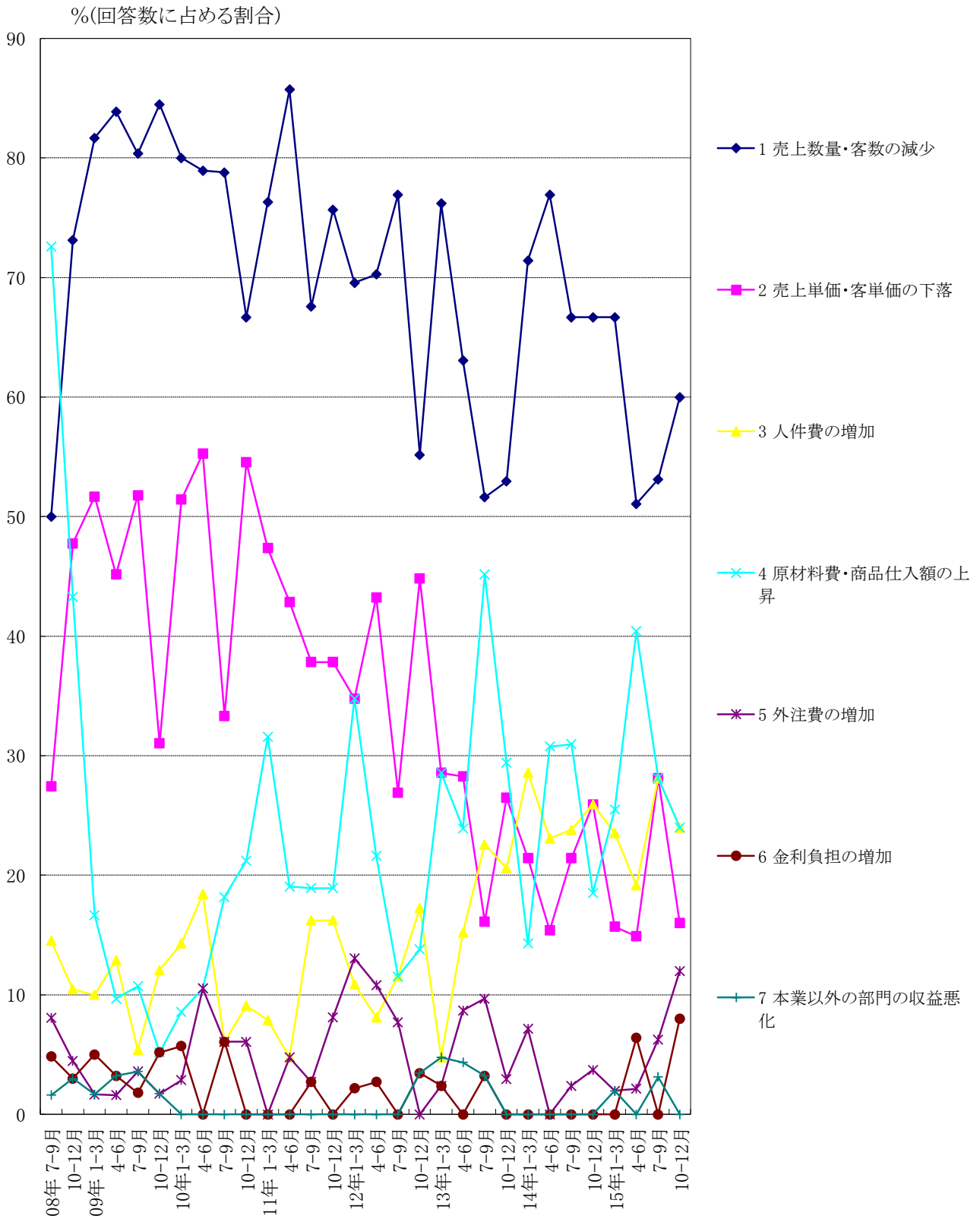


採算好転の理由の推移(2008年7-9月～2015年10-12月)



(備考) 選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

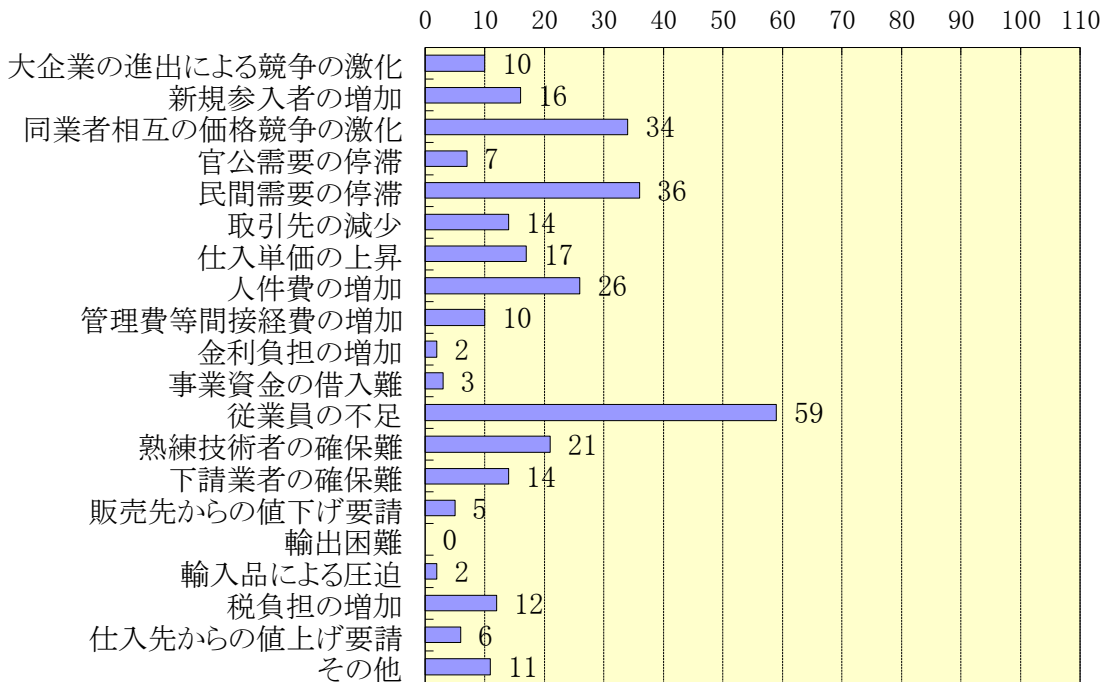
採算悪化の理由の推移(2008年7-9月～2015年10-12月)



(備考) 選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

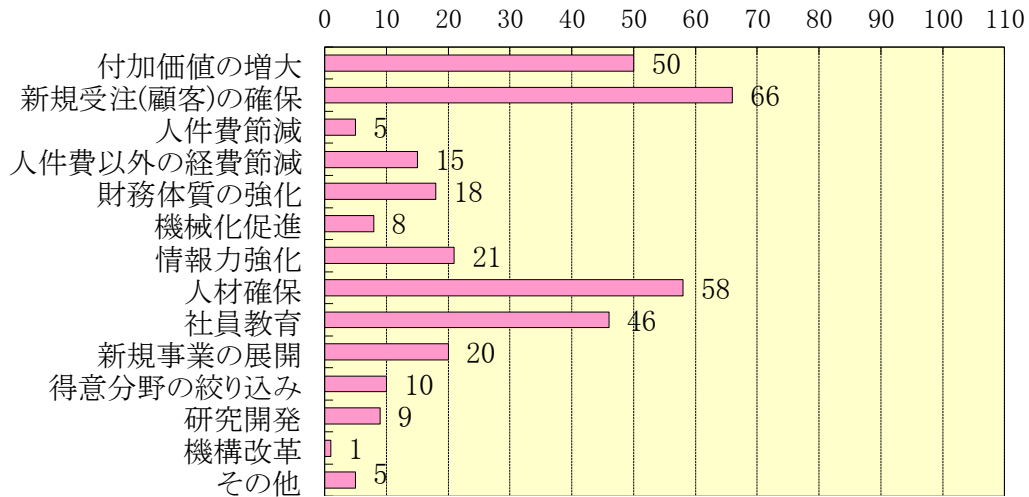
経営上の問題点(選択肢から上位3つ選択)

回答数

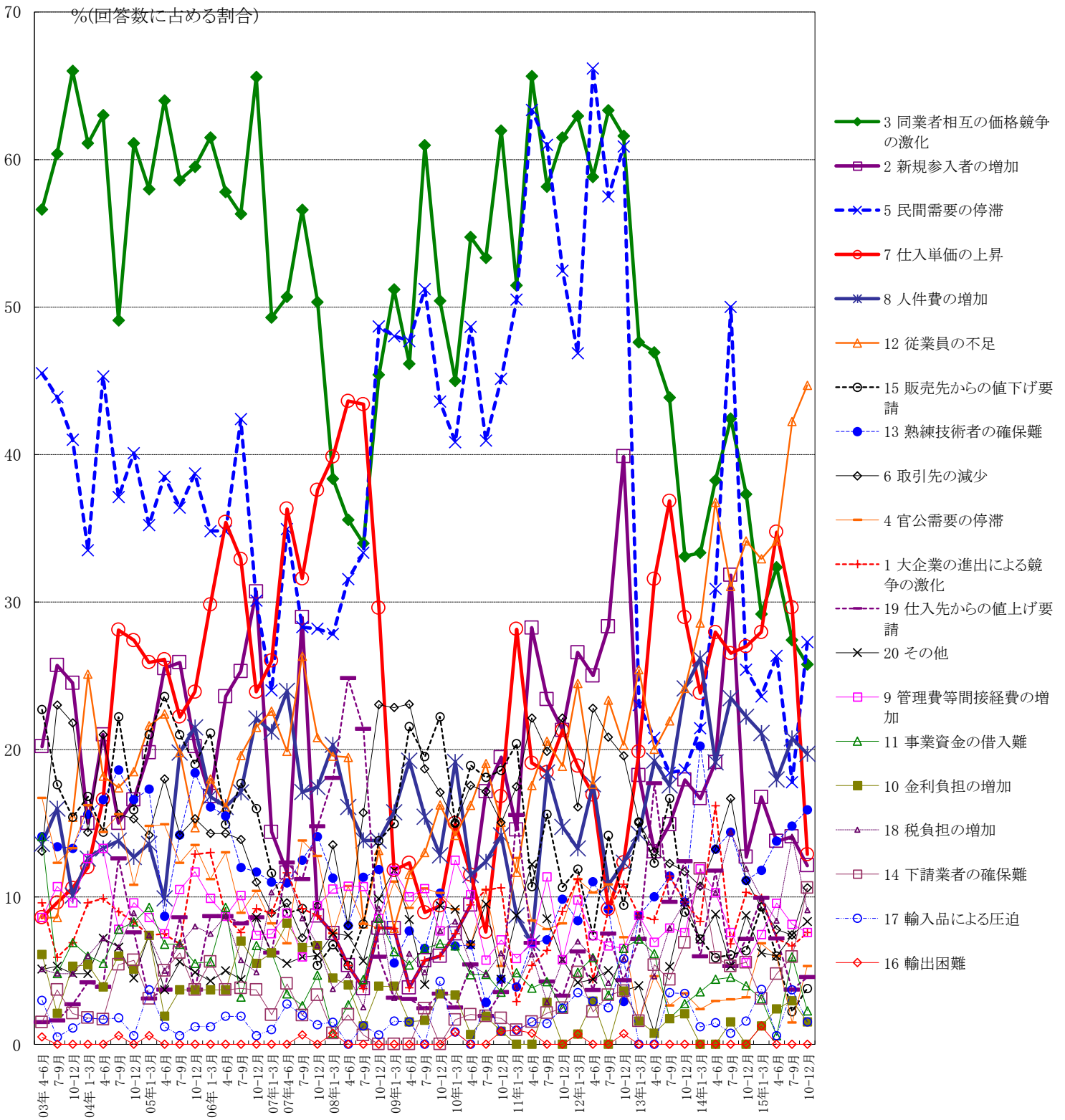


経営上の力点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



今期における「経営上の問題点」の推移(2003年4-6月～2015年10-12月)



次期に考える「経営上の力点」の推移(2003年4-6月～2015年10-12月)

% (回答数に占める割合)

